西東京市立田無第一中学校　学校だより　　令和７年５月２日（金）発行

むらさきそう

西東京市立田無第一中学校
校 長　　辻　康一
（住所）西東京市南町６－９－３７　　（電話）０４２－４６２－２８１１

カラー版はホームページで
ＵＲＬ　https://www.nishitokyo.ed.jp/j-tanashi1/

時には、「マイナス」も必要

始業式で、生徒のみなさんには、「耐える力と折れない心」を育てようという話をしました。それに関連して、今回は菊の花のお話です。今の季節は春ですが、菊は秋になると美しい花を咲かせ、花の品評会が開かれたり、菊人形が作られたりして、ニュースで話題になったりします。菊にはいろいろな種類があり、日本には野生のものだけでも 20 種類以上が生育しています。私が生まれた奈良県には菊の栽培で有名な地域があるのですが、そこで教えてもらって驚いたお話です。

秋に美しい花を咲かせる菊ですが、この花はいつになっても咲かないといったことがあるそうです。また、わざと咲かせないこともできるのだそうです。では、どういうときに咲かないかというと、それはずっと菊に光が当たっているときです。意外に思いませんか？　理科の授業で学習したように、植物にとって日光はとても大事なものです。植物は日光・水・二酸化炭素を使って光合成を行い、炭水化物を作ります。それを使って植物が成長するのですから、花が咲くためには日光が必要だと考えるのが普通です。しかし、そうではないのです。

菊は短日植物といって、昼間の時間が短くなるとつぼみができて花が咲く性質があります。ところが、ずっと光が当たっていると一日中昼間になっているのと同じ状態になります。つまり、昼間が 24 時間あるということです。そうすると、いつになってもつぼみができず、花が咲かないのです。つまり、菊が花を咲かせるには、光が当たらない時間も大切だということです。成長のためには欠かせないものでも、ある一定の量を超えると、必ずしもよいもではなくなります。反対に、成長のためにはマイナスに思えるものでも時には必要になることがあるのです。

私たちの生活にも光がよく当たって幸せなときも、反対に光が当たらなくて落ち込んだり困ったりすることもあります。できれば、いつも光が当たっているといいなと思うかもしれません。けれども、菊の花が咲くためには光が当たらないときも大切なように、私たちの生活でも、成長していくには光が当たらないことも大切なのではないかと思います。
光が当たらないときに、自分を振り返って反省したり、光が当たることに感謝する気持ちをもてたりすれば、きっといつか、成長して菊の花のように美しい花を咲かせることができるのではないでしょうか。

【　対面式・委員会／部活動オリエンテーション　】（４月１０日）

対面式・委員会／部活動オリエンテーションが行われました。入学したばかりの一年生のために、昨年度から生徒会執行部役員を中心とした2,3年生の先輩たちが準備をしてくれました。まずは素敵な花道と拍手、そして生徒会長の大月さんの立派なあいさつで迎えられ、花鉢をプレゼントしていただきました。最後は先輩方全員による校歌斉唱を聴いて終わりました。堂々とした指揮と伴奏、そして入学式の校歌隊以上の歌声に、聴いていた一年生も驚きました。

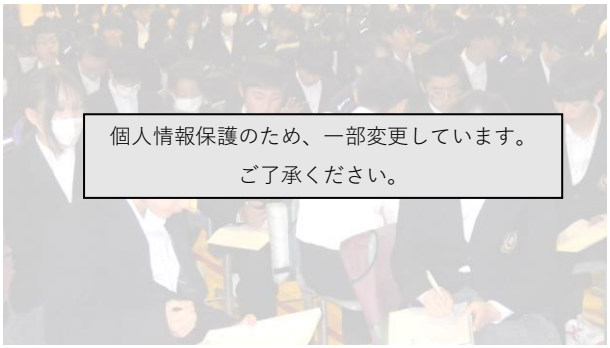
その後は教室に３年生の委員長が来て、各委員会の説明をしてくれました。わかりやすくはきはきとした説明のおかげで、一年生が見通しをもって委員会決めを行うことができました。

そして各部活によるオリエンテーション。それぞれの部活がユニークなパフォーマンスを披露して、場を沸かせていました。その後の仮入部では多くの生徒が先輩に優しく迎えられ、笑顔で活動する様子が見られました。

多くの方々の支えのおかげで、この一か月の間一年生は充実した中学校生活を送ることができています。これからも、温かく見守ってもらえれば幸いです。

（一学年主任）

【　２学年　道徳　SOSの出し方に関する授業　】（４月１６日）



２学年は道徳の時間を使い、「ＳＯＳの出し方に関する教育」を行いました。ストレスの対処法を正しく理解し、どのように対処していくかを考える時間となりました。

授業の最後には、スクールカウンセラーの先生にお話をいただきました。自分を守るためにも、大きなストレスを抱えてしまう前に、まずは身近な大人や相談窓口に頼り、話を聞いてもらうことが大切だと学びました。

（二学年教諭）